

保護者 様

鹿嶋市立波野小学校長 樋口 洋美

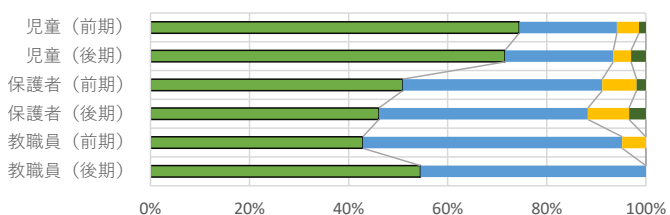
学校評価結果のお知らせ

向春の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃より、本校の教育活動に対し、ご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。また、この度は後期学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。児童、保護者、教職員の回答を集計、分析しまとめました。この結果をもとに、よかった点は継続して指導し、改善しなければならない点は取組を見直すなど、職員一同今後の教育活動に生かしていきたいと思いをします。

児童 先生は、わかりやすく勉強を教えてくれる。

保護者 先生は、基礎的な学力が身に付くようわかりやすい授業をしている。または、子供がそのように言っている。

教職員 自分は、授業で子どもが学習したことをきちんと理解しているかどうかを確認している。

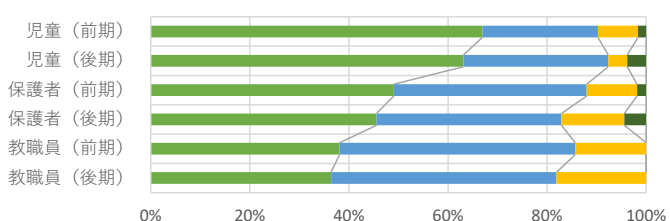


		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
児童	前期	74.4%	19.7%	4.4%	1.4%
	後期	71.6%	21.9%	3.6%	3.0%
保護者	前期	50.9%	40.3%	6.9%	1.9%
	後期	46.1%	42.2%	8.3%	3.4%
教職員	前期	42.9%	52.4%	4.8%	0.0%
	後期	54.5%	45.5%	0.0%	0.0%

児童 勉強がわからないとき、先生が手助けをしてくれる。

保護者 先生は、子どもに応じた学習の手助けを行っている。または、子供がそのように言っている。

教職員 自分は、子どものつまずきを把握して、個に応じた学習指導や補充指導等で、子どもを支援している。

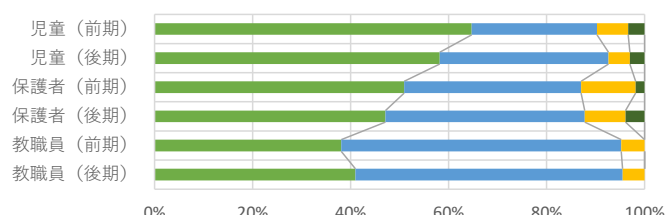


		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
児童	前期	66.9%	23.3%	8.1%	1.7%
	後期	63.1%	29.2%	3.8%	3.8%
保護者	前期	49.1%	38.9%	10.2%	1.9%
	後期	45.6%	37.3%	12.7%	4.4%
教職員	前期	38.1%	47.6%	14.3%	0.0%
	後期	36.4%	45.5%	18.1%	0.0%

児童 先生は、「知りたい」「やってみよう」と思うような授業をしてくれる。

保護者 先生は、子どもの興味や意欲を高める授業を工夫している。または、子供がそのように言っている。

教職員 自分は、子どもが進んで学習に取り組めるよう、主体的・対話的で深い学びの視点で授業を行っている。

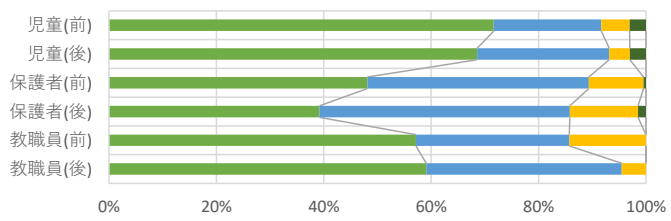


		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
児童	前期	64.7%	25.6%	6.4%	3.3%
	後期	58.2%	34.4%	4.4%	3.0%
保護者	前期	50.9%	36.1%	11.1%	1.9%
	後期	47.1%	40.7%	8.3%	3.9%
教職員	前期	38.1%	57.1%	4.8%	0.0%
	後期	41.0%	54.5%	4.5%	0.0%

児童 先生は、がんばっていることをほめてくれたり、困ったときに助けてくれたりする。

保護者 学校は、児童一人一人を理解し、大切にしていると思う。

教職員 自分は、子ども一人一人の個性を理解し、適切な指導・支援をしている。

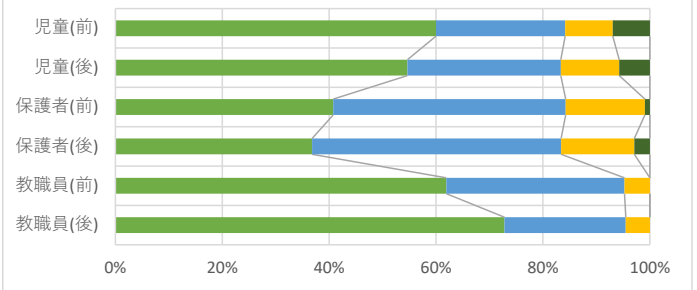


		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
児童	前期	71.7%	20.0%	5.3%	3.1%
	後期	68.6%	24.6%	3.8%	3.0%
保護者	前期	48.1%	41.2%	10.2%	0.5%
	後期	39.2%	46.6%	12.7%	1.5%
教職員	前期	57.1%	28.6%	14.3%	0.0%
	後期	59.1%	36.4%	4.5%	0.0%

児童 わたしのクラスは楽しく、教室は安心できる場所である。

保護者 学校は、いじめのない学校、学級・環境づくりに取り組んでいると思う。

教職員 自分は、子ども一人一人が安心でき、所属感のある学級づくり・環境づくりに取り組んでいる。

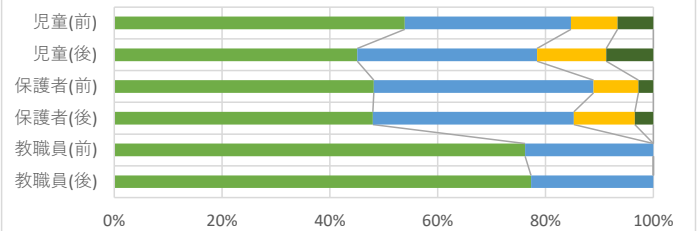


		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
児童	前期	60.0%	24.2%	8.9%	6.9%
	後期	54.6%	28.7%	10.9%	5.7%
保護者	前期	40.7%	43.5%	14.8%	0.9%
	後期	36.8%	46.6%	13.7%	2.9%
教職員	前期	61.9%	33.3%	4.8%	0.0%
	後期	72.8%	22.7%	4.5%	0.0%

児童 困ったときなどに、先生に相談しやすい。

保護者 学校は、個別面談や教育相談等が充実しており、先生に相談しやすい。

教職員 学校は個別面談や教育相談の場を活用し、子どもや保護者の話をよく聞いている。

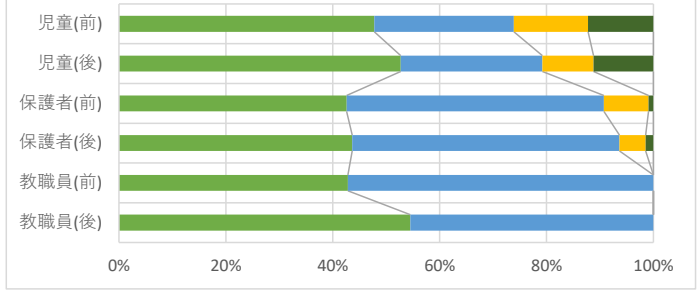


		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
児童	前期	53.9%	30.8%	8.6%	6.7%
	後期	45.1%	33.3%	12.8%	8.7%
保護者	前期	48.1%	40.7%	8.3%	2.8%
	後期	48.0%	37.3%	11.3%	3.4%
教職員	前期	76.2%	23.8%	0.0%	0.0%
	後期	77.3%	22.7%	0.0%	0.0%

児童 学校で、命のたいせつさや社会のきまりについて教えてもらっている。

保護者 学校は、子どもに命を大切にする心や、社会のルールを守る態度、郷土を理解する心をはぐむ教育をしていると思う。

教職員 自分は、生命を大切にする心、社会のルールを守る態度及び、郷土を理解する心を育む指導をしている。また、家庭・地域社会との連携・協力の推進により、郷土を資する心を育む指導をしてい

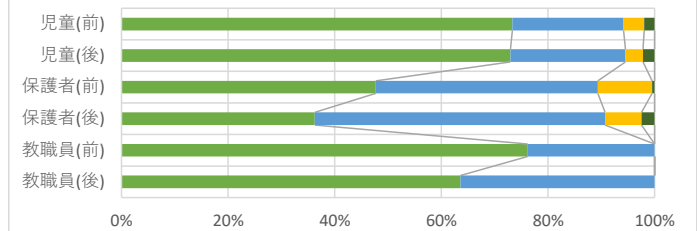


		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
児童	前期	47.8%	26.1%	13.9%	12.2%
	後期	52.7%	26.5%	9.6%	11.2%
保護者	前期	42.6%	48.1%	8.3%	0.9%
	後期	43.6%	50.0%	4.9%	1.5%
教職員	前期	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%
	後期	54.5%	45.5%	0.0%	0.0%

児童 安全に避難する方法や安全な道路の歩き方がわかっている。

保護者 学校は、子どもの安全確保や健康管理のための取組を十分に行っていると思う。

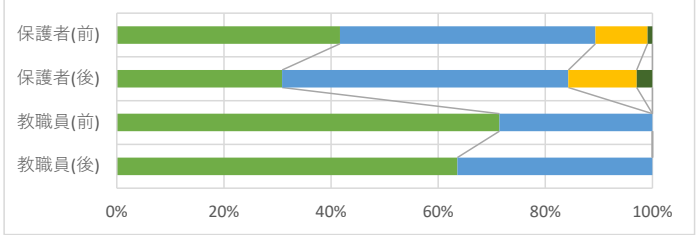
教職員 学校は、安全計画・危機マニュアル等によって組織的に安全管理がなされている。



		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
児童	前期	73.3%	20.8%	3.9%	1.9%
	後期	73.0%	21.6%	3.3%	2.2%
保護者	前期	47.7%	41.7%	10.2%	0.5%
	後期	36.3%	54.4%	6.9%	2.5%
教職員	前期	76.2%	23.8%	0.0%	0.0%
	後期	63.6%	36.4%	0.0%	0.0%

保護者 学校は、家庭地域と積極的に連携・協力している。

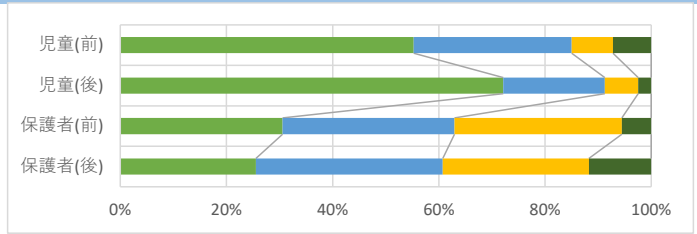
教職員 学校は、日頃の教育活動に、家庭や地域の協力を得る機会を設けている。



		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
保護者	前期	41.7%	47.7%	9.7%	0.9%
	後期	30.9%	53.4%	12.7%	2.9%
教職員	前期	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%
	後期	63.6%	36.4%	0.0%	0.0%

児童 先生は、本をたくさん読むようにすすめてくれる。

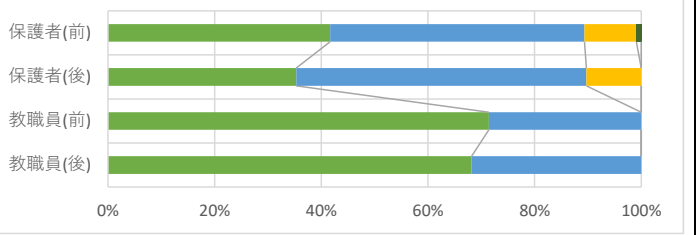
保護者 子どもは、進んで読書をしている。



		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
児童	前期	55.3%	29.7%	7.8%	7.2%
	後期	72.1%	19.1%	6.3%	2.5%
保護者	前期	30.6%	32.4%	31.5%	5.6%
	後期	25.5%	35.1%	27.5%	11.7%

保護者 学校は、学校の情報や子どもの様子をお便りやホームページ、その他の方法で情報をよく発信している。

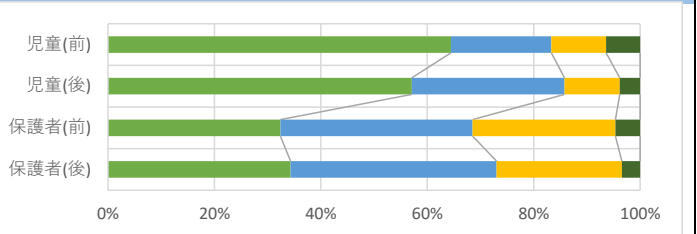
教職員 学校は、学校の情報や子どもの様子を、適切な方法で保護者や地域に伝えている。



		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
保護者	前期	41.7%	47.7%	9.7%	0.9%
	後期	35.3%	54.4%	10.3%	0.0%
教職員	前期	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%
	後期	68.2%	31.8%	0.0%	0.0%

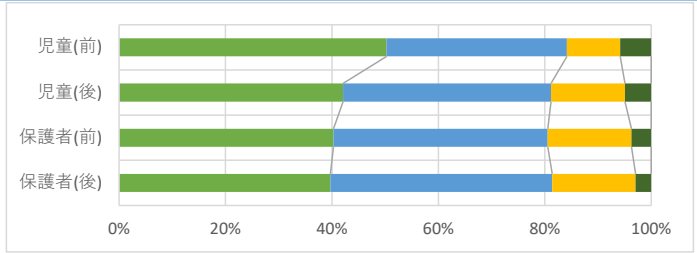
児童 英語の授業は楽しい。

保護者 子どもは、英語に興味をもち、楽しく学習に取り組んでいる。



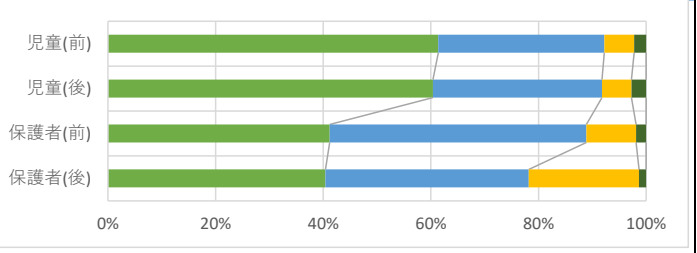
		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
児童	前期	64.4%	18.9%	10.3%	6.4%
	後期	57.1%	28.7%	10.4%	3.8%
保護者	前期	32.4%	36.1%	26.9%	4.6%
	後期	34.3%	38.7%	23.5%	3.4%

児童 家で宿題や工夫した勉強を自分からしている。
保護者 子どもは、きちんと宿題や自主的な勉強をしている。



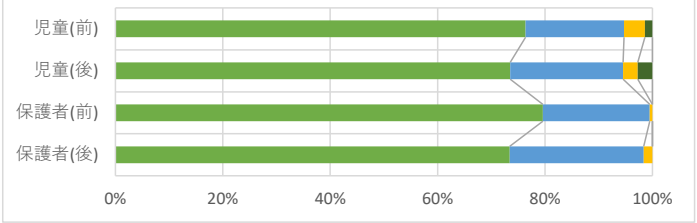
		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
児童	前期	50.3%	33.9%	10.0%	5.8%
	後期	42.1%	39.1%	13.9%	4.9%
保護者	前期	40.3%	40.3%	15.7%	3.7%
	後期	39.7%	41.7%	15.7%	2.9%

児童 学校や家であいさつをしている。
保護者 学校であいさつ運動をしていることを知っており、家でもあいさつをさせようとしている。



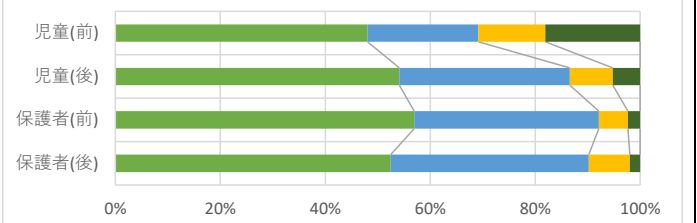
		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
児童	前期	61.4%	30.8%	5.6%	2.2%
	後期	60.4%	31.4%	5.5%	2.7%
保護者	前期	41.2%	47.7%	9.3%	1.9%
	後期	45.1%	42.2%	22.9%	1.5%

児童 いろいろな活動(学校行事など)が楽しみである。
保護者 子どもは、いろいろな学校行事(運動会、遠足、体験活動、避難訓練等)を一生懸命やっている。



		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
児童	前期	76.4%	18.3%	3.9%	1.4%
	後期	73.5%	21.0%	2.7%	2.7%
保護者	前期	79.6%	19.9%	0.5%	0.0%
	後期	73.5%	25.0%	1.6%	0.0%

児童 クロームブックを活用して学習に取り組んでいる。
保護者 学校は、クロームブックや電子黒板などのICT機器を活用していると思う。または、子どもがそう言っている。



		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
児童	前期	48.1%	21.1%	12.8%	18.1%
	後期	54.1%	32.5%	8.2%	5.2%
保護者	前期	56.9%	35.2%	5.6%	2.3%
	後期	52.5%	37.7%	7.8%	2.0%

1 全体的な評価の傾向

前期・後期を通じて、児童・保護者ともに多くの項目で肯定的評価（「あてはまる」「ややあてはまる」）が得られました。本校の教育活動に対し、多くのご理解とご協力をいただいていることが、アンケート結果からわかりました。

2 良かった点

- ・「クロームブックを活用して学習に取り組んでいる」と回答した児童が、前期の約 69%から約 87%へと大幅に増加（前期比+17.4 ポイント）しました。後期は、各教科でクロームブックを活用する場面が増え、児童自身が「ICT を使って学んでいる」と手応えを感じられた結果と言えます。本校の組織目標である「95%」達成まであと一歩です。今後は、単に使うだけでなく、思考を深めるための「文房具」として定着するよう、さらなる日常化を進めてまいります。
- ・学習内容が難しくなる後期においても、「授業がわかりやすい（93.4%）」「授業が楽しい（92.6%）」という肯定的な評価が、前期に続き 9 割を超えています。教職員が「わかった」「できた」を実感できる授業づくりに努め、児童がそれに応じて意欲的に学習に取り組んでいる成果と言えます。本校では「授業がわかりやすい 100%」を組織目標に掲げており、この結果に甘んじることなく、全ての児童が学習の楽しさを実感できるよう、引き続き個に応じたきめ細かな指導の充実を図ってまいります。

3 改善点

- ・「命のたいせつさや社会のきまりについて教えてもらっている」という肯定的な回答が 79.2%（前期比+5.3 ポイント）でした。本校の組織目標である「90%」には及びませんが、取組の成果は表れ始めています。道徳の授業の充実や、助産師による「命の授業」、実践的な避難訓練など、生命尊重と規範意識の醸成に向けた具体的な取組が、児童の意識変容につながったと考えます。今後は、一人ひとりの心の成長を丁寧に見守り、自分も他人も大切にできる豊かな心を育ててまいります。
- ・「本をたくさん読むようにすすめてくれている」という児童の自己評価は 91.2%（前期比+6.2 ポイント）と向上した一方で、「子どもは進んで読書している」という保護者評価は 60.6%にとどまり、組織目標である 70%には届きませんでした。学校での啓発活動は浸透しているものの、子供たちが主体的に本に親しむまでには至っていない現状があると受け止めています。今後は、「読まされる」から「読みたくなる」への転換を目指し、選書の幅を広げたり、読書の楽しさを共有する活動を取り入れたりするなど、学校での体験が家庭での豊かな読書時間につながるよう一層の工夫をしてまいります。
- ・「困ったときに先生に相談しやすい」という児童の肯定的な評価は 78.4%（前期比-6.3 ポイント）、保護者評価は 85.3%（前期比-3.5 ポイント）といずれも低下しており、組織目標である 95%には届いておりません。学年の締めくくりに向け、人間関係の悩みや進級への不安が生じやすい時期であったことも要因と考えられますが、この結果を真摯に受け止め、児童の小さなサインを見逃さない「話しやすい環境づくり」に一層努めてまいります。今後は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携し、家庭と学校が情報を共有し合うことで、早期対応・早期解決につなげられるよう協力体制を深めてまいります。

4 保護者の皆様からの質問・ご意見について

質問・ご意見	回 答
①インフルエンザ等の学級閉鎖があった場合、学年に関係なく、連絡してほしい。状況が分かったり、登校班の連絡の参考になったりするのでは、よいのではないか。	登校班の連絡等、子どもたちの安全へのご配慮をいただきありがとうございます。ご意見を踏まえ、今後は学級閉鎖等の状況につきまして、全家庭に向けてリーバーでお知らせいたします。
②インフルエンザなどの感染症が増えています。以前のように、手の消毒ができるアルコールなどの設置をお願いしたい。	ご意見ありがとうございます。現在、インフルエンザ等の感染対策として、全クラスにアルコール消毒液を設置しております。引き続き、換気の徹底や手洗いの指導など、基本的な感染症対策を継続して行っています。
③ 学校への電話は、いまは 17 時で留守電ですか。今までは 17 時 30 分だったと思いますが。	以前は 17 時 30 分だった時期もございますが、現在は、17 時 00 分に留守番電話に切り替わる運用とさせていただいております。 17 時以降の緊急のご連絡につきましては、鹿嶋市教育委員会（82-2911）へお願いしております。ご不便をおかけすることもあるかと思いますが、ご理解、ご協力をお願いいたします。
④ 通学カバンが重すぎる。通学も危ないし、子どもの姿勢にも影響があるのでではないか。	お子様の身体への負担や、登下校の安全をご心配されるご意見、重く受け止めております。教科書の大型化や端末の活用等により、荷物が重量化していることは学校としても課題と捉えています。現在、家庭学習で使用しない教科書や資料集等は学校に置いて帰るよう指導しております。また、荷物が多くなる学期末や年度末につきましても、一度に持ち帰る負担を避けるため、計画的に持ち帰るよう配慮してまいります。
⑤ 冬の時期の体操服の下着について、暖かい下着を認めてほしい。	ご意見ありがとうございます。冬季の体育時における服装につきましては、寒さ対策と活動のしやすさ（安全性）の両立が重要であると認識しております。どのような肌着であれば運動の妨げにならないか等、安全面を含めた規定の見直しについて、今後の検討事項とさせていただきます。
⑥ 修学旅行の際に、1 回でもいいので状況の報告の連絡があったらよかったなと感じた。	現地での様子について、ご心配をおかけし申し訳ありません。本校では、個人情報保護および活動中の事故防止の観点から、修学旅行中の教員による携帯電話の使用や写真撮影を控えておりました。今回はそのためにご連絡ができませんでしたが、保護者の皆様の「写真等を通して様子を知らせてほしい」という意見も大切に受け止め、次年度以降について話し合っています。

⑦ マラソン大会のメダルや書き初め大会の賞などなくなって残念である。	学校として賞のあり方を見直しておりますのは、他者との比較による評価だけでなく、お子様一人ひとりの努力の過程や、以前の自分からの成長を認め、讃えることをより大切にしたいという教育的な願いからです。目標に向かって頑張るすべてのお子様が「自分は成長できた」という達成感をもち、運動や書道そのものをさらに好きになってほしいと考えております。個々の努力や技術の上達について賞賛の言葉を伝え、子どもたちのよさを認めていきます。
⑧ 帰りの立哨当番は仕事をしている家庭にはかなりの負担になっている。学校の行事や体調不良等以外に休みを取るのは難しい。	日頃より児童の安全確保にご尽力いただき、ありがとうございます。帰りの立哨当番につきましては、地域・保護者の皆様による自主的な組織（子ども会等）によって運営・決定されております。学校から直接ルールを変更することはできませんが、社会状況の変化に伴い、保護者の皆様の負担感が増していることは認識しております。今後の活動の在り方につきまして、地域の会合等の場においてご協議いただけますようお願いいたします。

保護者の皆様より学校の取組に対してのご意見や賞賛を多数いただき、ありがとうございました。お寄せいただいた一つひとつのご意見を、今後の教育活動の貴重な糧とさせていただきます。引き続き、皆様の温かいご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。